

ボランティア部“麦の会”の紹介

今回は本校のボランティア部“麦の会”の歴史について紹介します。

昭和51年(1976年)に自主グループとして発足し、今年で45年を迎えます。当時は全国的に中学校が荒れた時代でした。本校も崇中としての誇りが消え、自信をなくした生徒たちの姿がありました。そこで当時の校長先生の発案で「崇中生に自信を取り戻そう」「外部に頑張っている姿を発信しよう」「奉仕活動(当時はボランティアという言葉も活動もあまり知られていなかった)に取り組もう」という先進的な考えのもと、ボランティア自主グループ「麦の会」が発足しました。「麦の会」のいわれは、「麦は踏まれるほど強く育つ、打たれても打たれても、めげずに奉仕を続ける精神の支柱」として命名されました。

当時の主な活動は、毎週土曜日の午後の活動(当時は土曜日の午前中も授業日でした)で、駅・施設などを訪れて清掃や花を飾ったり、ペンキ塗りをしたりする活動でした。その後、生徒会・委員会活動の一部となった時代を経て、平成13年(2001年)から現在の部活動として活動するようになりました。こうした長年の地道な活動が認められ、過去には厚生労働大臣表彰・ライオンズクラブ表彰や豊田市長賞・ひまわり褒賞など、数々の賞を受賞してきました。今では崇中の特色の一つとなっています。

現在では、崇化館地区青少年育成委員会と連携し、毎年交流館祭「夢フェスタ」等にも参加させていただいています。さらには、「老人ホーム若草苑」「豊田市障がい者福祉会館」「子育て支援センターあいあい」への訪問を実施しています。このように、今までの伝統を受け継ぎながら、スローガン「HAPPY FAMILY」を合言葉に、「学校や地域に根ざしたボランティア活動を通して、人とのあたたかいつながりをつくる」活動をしています。

また、「麦の会」のボランティア精神を全校へ広げるという意味で、過去には全校ボランティア活動「ボランティア・フェスティバル」を実施。1年生は児童福祉を目的とし、こども園への訪問。2年生は高齢者福祉を目的とし、老人福祉施設等訪問。3年生は障がい者福祉を目的とし、障がい者施設訪問を実施してきました。ここ2年間はコロナ禍で活動が制約されていますが、今後も「麦の会」としての活動を継続していきます。

今年度最後の整備です！

崇中フラワーロードを整備しました！

12月16日(木)に、猿投観葉の木原さんのご協力を得て、今年度3回目のフラワーロード整備を行いました。

今回も本校のボランティア活動部「麦の会」が事前に植え替えの準備を進め、そして本日、2年1組、3組の生徒62名と学年職員3名で、赤・黄・青の三種のパンジー約1,600株を植えました。



ていねいに苗の植え替えをする崇中生

【豆知識クイズ?】

○新しいコロナウイルス“オミクロン株”が世界中で猛威を振るいつつあります。日本もこのオミクロン株による第6波が心配されるようですが、今まで通り「うがい・手洗い・マスク」「3蜜(密閉・密集・密接)を避ける」の基本対策の徹底をしていきたいものです。さて、新型コロナウイルス感染症の正式名称は「COVID-19」ですが、変異株が出るたびに「イギリス株」「インド株」等の発見された地域の名で言われていました。しかし、これは発見された国に汚名をきせることや差別につながり、さらにはWHOへの報告が遅くなることが懸念されたため、今では「アルファ株」「デルタ株」…と呼ぶことになりました。ところで、この言葉は何語が知っていますか？皆さんが数学で習った円周率 π (パイ)もその一つですよ。